

40. 熊本大学保健センター改善計画書

領域	改善計画 (H27. 3. 31現在)	改善状況① (H27. 12. 1現在)	改善状況② (H28. 12. 1現在)
研究	(法人評価までに改善する計画) 幅広い研究領域を設定し、外部資金獲得の応募件数を増やす。	1名退職で教員2名に減っており、さらに1名産休にはいるため増加させることはできなかった。総勢2人であるが科学研究費を1人取得している。	新たに教員を採用したこともあり、外部資金獲得件数が増加した。
	(2年間で改善する計画) 幅広い研究領域を設定し、外部資金獲得の応募件数を増やす。	1名退職で教員2名に減っており、さらに1名産休中のため増加させることは難しいが、1人複数応募を検討する。総勢2人であるが科学研究費は1人継続取得する予定である。	同上
	(次の組織評価までに改善する計画) 幅広い研究領域を設定し、外部資金獲得の応募件数を増やし、獲得額の増加に努力する。	1名退職で1名復職し、教員2名などっているが、複数応募を検討し、応募件数および獲得額を増加させる。科学研究費は1人継続取得する予定である。	同上
社会貢献	(法人評価までに改善する計画) 地域および社会にニーズに応え、地域および社会貢献活動を増加させる。	例年どおり熊本県や熊本市において相談業務および復職判定業務にて貢献した。	自治体が主催するメンタルヘルスの研修会や一般市民向けの公開講座に講師として招聘された。熊本市が実施している一般市民を対象とした精神保健の相談業務に定期的に従事した。
	(2年間で改善する計画) 地域および社会にニーズに応え、地域および社会貢献活動を増加させる。各教員が所属学会に関連した活動等を通じ、社会貢献の活動量を増やす。	学会の評議員として貢献した。また、学会の幹事として貢献した。日本循環器学会の診療と治療に関するガイドライン作成に携わり貢献した。	学会の評議員、幹事として貢献した。後は、同上
	(次の組織評価までに改善する計画) 地域および社会にニーズに応え、地域および社会貢献活動を増加させる。各教員が所属学会に関連した活動等を通じ、社会貢献の活動量を増やす。	保健センター職員が地域及び社会貢献の可能な内容についてさらに検討し、貢献の機会を増加させる。	昨年度と同様
国際化	(法人評価までに改善する計画) 平成27年度に保健センター利用外国人学生に満足度調査を実施する。	平成27年度に保健センター利用外国人学生に満足度調査を実施した。	平成27年度に実施した保健センター利用外国人学生に満足度調査を実施し、結果を検証した。
	(2年間で改善する計画) 平成27年度に実施した保健センター利用外国人学生の満足度調査の結果を元に、その問題点を洗い出し、改善方針を検討する。	外国人学生の満足度調査の結果を元に、その問題点を洗い出し、改善方針を検討する。	外国人学生の満足度調査の結果を踏まえ、その問題点を洗い出し、改善方針を検討し、学会発表を行った。留学生のメンタルヘルス相談の際に、グローバル教育カレッジの協力を受け、円滑な問診を実施できた。教育学部の協力のもと、英語による心理面談枠を毎週設けることが出来た。
	(次の組織評価までに改善する計画) 保健センター利用外国人学生の満足度調査を定期的に実施し、平成27年度実施時点より、高い満足度の獲得を目指す。	外国人学生の満足度調査の結果を元に、その問題点を洗い出し、保健センターの外国人対応の改善を行う。	外国人学生の満足度調査の結果を基に、グローバル教育カレッジ及び教育学部と連携を図り、留学生のメンタル面の相談が増加してきており、このまま維持する。
その他 (男女共同参画)	(法人評価までに改善する計画) 平成27年度に保健センター独自に育児・介護支援制度に関する講演会を実施する。	熊本大学男女共同参画推進室の方にきてもらい育児・介護支援制度に関する講演会を開催した。H27年5月11日5人のスタッフが聴講した。	熊本大学男女共同参画推進室と協力し、育児・介護支援制度に関する講演会を開催 (H27年5月11日) した。
	(2年間で改善する計画) 保健センター独自の育児・介護支援制度に関する講演会を定期的に実施する。	H27年度には熊本大学男女共同参画推進室の方にきてもらい育児・介護支援制度に関する講演会を開催した。次年度も男女共同参画に関連した講演会を開催できるように調整を行う。	平成27年度は、熊本大学男女共同参画推進室と協力し、育児・介護支援制度に関する講演会を開催したが、平成28年度は、。
	(次の組織評価までに改善する計画) 健康管理の専門集団として、全学のワークライフバランスの確立に向けた、保健センター独自の提言を行う。	今後関係部署と連携をはかりながら全学のワークライフバランスの確立に向けた提言を作成する。	保健センター7名 (医師3名、看護師3名、臨床心理士1名) のスタッフのうち3名が育児休業を取得しており、ワークライフバランスのとれた職場になっていると考えられる。うち2名は来年度、復帰予定であるが、育児による時短勤務を行う予定である。
その他 (学生生活支援)	(法人評価までに改善する計画) 精神・心理関係の人員および予算獲得に努力する。	障がい者支援、ストレスチェックの実施など大学保健に関する業務量増加が必至であり、人員の確保および予算について連携する各部署と検討を重ねた。	障がい者支援、ストレスチェックの実施など大学保健に関する業務量増加が必至であり、人員の確保および予算について連携する各部署と検討を重ねた。スムーズな学生支援の実施に向け、学生支援室及び学生相談室との合同カンファレンスを行っている。
	(2年間で改善する計画) 精神・心理関係の人員および予算獲得に努力し、精神・心理関係相談枠の増加を目指す。障害を有する学生が本学で学生生活を送る上の本学特有の問題点を洗い出し、支援策を検討する。	現在障がい者支援室の教員を募集している。障害者支援室と連携して障害を有する学生が本学で学生生活を送る上の本学特有の問題点を洗い出し、支援策を検討する。	保健センターと連携している学生支援室は特任教員 (臨床心理士) 1名、ソーシャルワーカー1名及び保健センター教員である学生支援室長兼任の3名で構成されることになり、障がい有する学生の支援を開始した。スムーズな学生支援の実施に向け、学生支援室及び学生相談室との合同カンファレンスを行っている。
	(次の組織評価までに改善する計画) 精神・心理関係の人員および予算の獲得に努力し、精神・心理関係相談枠の増加を目指す。障害を有する学生が本学で学生生活を送る上の本学特有の問題点を洗い出し、支援策を実施する。	現在障がい者支援室の教員を募集している。障害者支援室と連携して障害を有する学生の支援を実施する。	学生支援室及び学生相談室との合同カンファレンス等を通して、障害を有する学生が本学で学生生活を送る上での本学特有の問題点を洗い出し、支援策を実施する。

その他 (産業医活動)	(法人評価までに改善する計画) 事業場における職員メンタルヘルス評価のための学内手続き案を確定し、実施する。	現在、ストレスチェックを学内全職員に対して行うためのワーキングを行っている。その一環として、学長からストレスチェック開始について全職員に向けたアナウンスを12月1日出してもらった。	今年度、ストレスチェックを実施した。
	(2年間で改善する計画) 事業場における職員メンタルヘルス評価を毎年実施し、本学事業場の問題点を洗い出し、その対策案を検討する。	平成28年度春から夏にかけて全職員のストレスチェックを行う予定でワーキングを進めている。	同上
	(次の組織評価までに改善する計画) メンタルヘルス対策案を実行し、メンタルヘルスの問題で休職する職員の職場復帰を促進する。	ストレスチェックの結果を考慮して、メンタルヘルス対策案を実行し、メンタルヘルスの問題で休職する職員の職場復帰を支援する。繰り返し休職者および関係者と面談を行い、必要があれば主治医とも連絡を取って復職の支援を行い、復職後も経時的に面談や調査を行って復職後の変化にも注意している。	ストレスチェックの結果を考慮して、メンタルヘルス対策案を実行し、メンタルヘルスの問題で休職する職員の職場復帰を支援した。繰り返し休職者及び関係者と面談を行い、適宜、主治医とも連絡を取って復職の支援を行い、復職後も経時的に面談や調査を行って復職後の支援も心掛けている。
管理運営	(法人評価までに改善する計画) 平成27年度に保健センターを利用する日本人及び外国人の学生・教職員に利用者ニーズと満足度に関する調査を実施する。	平成27年度に保健センター利用日本人・外国人学生に満足度調査を実施した。殆どの利用者が保健センターの対応やセンター職員のコミュニケーション能力に対して満足しているという結果が得られた。職員に対する満足度調査は現在行っている。	平成27年度に保健センター利用日本人・外国人学生に満足度調査を実施し、ほとんどの利用者から対応に満足しているという結果が得られた。職員における満足度調査の結果についても満足度は高かった。
	(2年間で改善する計画) 保健センターを利用する日本人及び外国人の学生・教職員に利用者ニーズと満足度に関する調査のデータを元に改善のための方策を検討する。精神・心理関係の人員および予算獲得に努力し、精神・心理関係相談枠の増加を目指す。	平成27年度に保健センター利用日本人・外国人学生に満足度調査を実施した。職員に対する満足度調査を現在行っている。この結果を元に保健センター業務の改善の為の方策を検討する。学生支援部、人事労務ユニット、学長へ人員の確保および予算について働きかけを行っている。	平成27年度に保健センター利用日本人・外国人学生に満足度調査を実施し、ほとんどの利用者から対応に満足しているという結果が得られた。職員における満足度調査の結果についても満足度は高かった。学生支援部、人事課等へ人員の確保及び予算について働きかけを行っている。
	(次の組織評価までに改善する計画) 保健センターを利用する学生および職員の満足度調査を行い、日本人および外国人共にその満足度が高めるための方策を実施する。メンタルヘルス対策案を実行し、メンタルヘルスの問題で休職する職員の職場復帰を促進する。	平成27年度に保健センター利用日本人・外国人学生に満足度調査を実施した。職員に対する満足度調査を今後行っている。この結果を元にその満足度を高めるための方策を実施する。	日本人・外国人学生の満足度調査の結果、ほとんどの利用者が保健センターの対応やセンター職員のコミュニケーション能力に対して満足しており、職員における満足度調査の結果も満足度は高かった。平成28年度は震災の影響もあり、メンタルヘルス相談はさらに増加しており、同相談者全員に対して不安・抑うつ問診票を実施することで、保健センター内スタッフ間での情報共有を図っている。また、保健センター医師としてだけでなく、産業医としてメンタルヘルスの問題で休職する職員の職場復帰支援を積極的に行っていく。